

残薬調査における『おくすり回収袋』の有用性

長崎腎病院 長崎腎クリニック

○中島さゆり 山下万紀子 畠山今日子 川口利江 川口唯 吉野秀章
小串百合子 草刈祥子 小嶺真耶 矢野未来 江藤りか 船越哲
橋口純一郎 原田孝司

【背景・目的】

患者の残薬を確認することで薬の飲み忘れや自己調節などの状況が把握できると考えられる。そこで、残薬調査のため『おくすり回収袋』の配布、回収を行った。

【方法】

当院外来透析患者に『おくすり回収袋』を渡し、自宅にある残薬を持参してもらった。残薬の内容を確認し、残薬が多い患者に対しては聞き取りや処方変更の提案を行った。

【結果】

『おくすり回収袋』を渡した患者 272 名中 164 名 (60.3%) より返却があり、返却者のうち 37 名 (22.6%) は回収袋内の残薬はなかった。残薬の総額は 83 万 3556.5 円であり、残薬の金額ベースではリン吸着薬やシナカルセット塩酸塩、降圧薬、カリウム吸着薬の残薬が多かった。

【考察】

『おくすり回収袋』を用いることでの患者の残薬を確認できた。これにより患者の服薬アドヒアランスを把握し、患者に合わせた処方提案が可能となり、医療費削減にもつながると考えられる。